他県の育成会の状況を見聞きするところでは、各種会議（理事会や評議員会、総会、役員会など）を、インターネットのオンライン会議システムを活用しての実施や、研修会をインターネットでライブ配信や録画配信をしていました。しかし、これらの取り組みができる会と、できない会の力量の差が大きくあるのも実態です。育成会ではない別の社会福祉法人では、これまで研修会や交流会等を開催して参加者を募り、啓発やサポートをするといった「集客型」で実施をしてきましたが、今後、新型コロナが収束した場合であっても、今まで通りのやり方も続けていきながら、主軸は個別のニーズに対応をして啓発やサポートをしていくといった「個別対応型」に方針転換をしていくと聞きました。

大阪市育成会の中でも、法人内職員を対象とした会議を、一部ですがオンラインでも実施するようになりました。今後は法人内での会議に留まらず、主催する研修会や交流会でも、録画配信やライブ配信も取り入れながら、啓発や情報提供をして参りたいと考えています。

全国連合会の久保会長からも、ブロック大会や県大会等で今後の育成会のあり方についてご発言される際、スマートフォンを活用して情報を得ることができるようになって欲しいとあります。大阪市育成会でも同様であり、会員の皆さんがインターネット上にある情報に到達できるように、わかりやすい情報提供でサポートをしていきたいと思っています。

東成育成園　　管理者　　長谷　弥朋

例年より、肌寒い日が続いたからか、雨が少なかったからでしょうか、今年度は少しいつもより長めに桜の花の時期が長く続いたように感じています。令和４年度も引き続き東成育成園の管理者を拝命いたしました長谷弥朋です。よろしくお願いいたします。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、利用者の皆さまおよびご家族の皆さまにもご心配をおかけしました。罹患された利用者の方や職員が大きな後遺症も無く元気に復帰をしてくれたことが幸いであったと感じています。コロナ禍という事もあり、行事のあり方だけでなく普段の生活や活動が大きく変わり、戸惑うことが多い一年でありました。今まで行っていた園全体で行う行事が出来ず、グループごとでおこなう形に切り替えた活動や、例年行ってきた行事そのものが出来なくなり寂しい思いをされた方も多くおられたことと思います。一方で大きな集団での活動や行事、取り組みが不安であると感じ、普段の日課も自粛をされる方が少なからずおられました。利用される皆さまが少しでも安心して過ごしていただくことが出来るよう感染対策を徹底するよう努めてまいりました。

まだまだ新型コロナが発生する前の日常に戻るまでにはいたっておらず、園全体での行事などは今年度も難しいと思いますが、東成育成園を利用される方々が少しでも安心して活動に参加し、日々を過ごすことが出来るよう、取り組み内容を検討してまいります。

東成育成園のスタッフ全員が、法人の理念にある障がいのある方が心豊かに過ごすことが出来ようにを目指して、利用される方の気持ちにより添いながら、どの様な支援がその方々にとって豊かな生活つながることができるのかを一緒に考え支援を行ってまいります。今年度もよろしくお願いいたします。

港育成園　　管理者　　藤原　勇治

昨年度より引き続き、令和４年度につきましても港育成園管理者の辞令を拝命しました藤原勇治です。施設の運営にあたりましては、新しい生活様式を取り入れながら、安心・安全面での工夫に最善を尽くして取り組み、少しでも多彩で楽しい活動が実現できるように、職員一同努力して参りたいと思います。

令和３年度は当初から新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に苦心した１年でした。昨年９月末までの緊急事態宣言下は、施設での感染拡大はほぼなかったと評価できるのですが、まん延等防止重点措置が出されていた今年２月下旬ころから、ご利用者・職員ともに感染者が多数発生し、皆様方にはたいへんご心配とご迷惑をおかけしました。無症状の感染者による感染拡大を充分にコントロールできず、管理者による、施設の臨時休園等の措置をできるだけ取らないという方針が、強いメッセージの発信を躊躇することになったこと、施設の感染防止対策で、濃厚接触者はないと判断したことが、結局感染拡大につながってしまったと考えています。幸い、重症化する方もなく、現在はご利用者・職員ともに感染者はなく、ようやく落ち着いてきました。今後も、第７波を乗り越えることができるように、ていねいに対策を講じていきたいと考えています。